

あ と が き

「長崎県の地学」の最終校正が修了し、半年余にわたる編集の仕事も終りに近づいた。編集委員一同ようやく肩の荷が降りたような気持ちで製本完了の姿を待っている。この半年、汗をふきふき深夜におよぶ会合を何回となく続けてきた。一時は11月7日の記念総会までに間に合いそうもなく、絶望感に落ち込んだときもあり、1日の時間の短いことを嘆息したこともあった。

もともとこの冊子を作ろうという声は以前からあったが、具体化し始めたのは昭和45年秋の第58回日曜巡検会の神浦ダムサイトにおける昼食後の会話からであった。それは今までの巡検記事をそのまま集録しようという声であったが、その後具体的な進展もないまま年を越えた。会員からは機会あるたびに、10周年記念事業の一環としてこの冊子を出版しようという声が聞かれるようになり、それに応じて昭和46年3月の理事会で編集委員の人選が行なわれた。しかし年度変わりの校務のため、5月下旬になってようやく編集委員の初会合を開いて、地域やテーマなどの基本方針をたてた。この基本方針を6月20日の理事会で検討してもらった。

6月下旬に数回の委員会を開き、地域をさらに選別し、執筆者のリストを作成した。とにかく急速になってきた最近の土地開発のため、再検討を要する地区も多く、執筆者に夏の間に検討を加えてもらえるようにと、依頼状と内容見本を発送したのが6月末日であった。

執筆者が多忙であるため、全編の原稿が集まるだろうかという不安があったが、9月中ばまでに全編入手できた。執筆に当たられた方々に感謝申し上げる。9月にはいって、本格的な編集を始めた。冊子のスタイルを統一するため、かなり筆を入れたものもある。日を追って編集委員会も白熱化し、口からあわを飛ばして討論を行な

ったこともある。また、一杯のインスタントラーメンで空腹を満し、深夜の帰路で星座の勉強をしたこともあった。

10月5日に、割り付けをやって印刷に回したが、印刷所の方々の最大限の好意によって、何とか11月7日に出版できそうである。

最後に、この冊子の編集のため、迷惑をおかけした昭和堂印刷の深江さんや西高校の宿直員の方々に厚く御礼申し上げる。なお、編集委員の勉強不足で、編集内容に手落ちなども多いことと思われるが、ご了承いただきたい。今後は内容をより充実し、さらにより良きものにしていきたいものである。

昭和46年10月27日

編集委員（五十音順）

荒木真寿男，石川 直衛，小田 忠昭，鎌田 泰彦，
西村 暉希，堀口 承明，丸山 稜人，山本 寿一